

2019年11月22日

## 溺死事例における蝶形骨洞内貯留液量の有用性に関する研究

鼻の奥に蝶形骨洞という空洞があります。溺れて亡くなる場合に、吸い込んだ水がこの蝶形骨洞に入るといわれており、この空洞内に溜まった貯留液量が溺死の補助的な診断に有用とされていますが、報告例は少ないです。そこで本研究では、溺死事例において、蝶形骨洞内貯留液量の有用性を検証したいと考えています。この研究は、香川大学医学部倫理委員会の審議にもとづく医学部長の許可を得て行っています。

### 1. この研究の対象となる方：

香川大学医学部にて2014年1月から2018年12月までの期間に法医学解剖を実施した方のうち、死後8日未満の成人で、蝶形骨洞内の検索が可能であり、死因が判明した方の年齢・性別・死因・死後経過時間・蝶形骨洞内貯留液の量および性状などの資料を対象としています。

### 2. 対象になった方の不利益と危険性：

研究に用いる資料データは個人名が特定できないようにした上で、厳重に管理しますので、研究の対象になることで、特に不利益が生じることはありません。また、既存の資料からデータを収集しますので、危険性はありません。

この研究について、研究計画や関係する資料、研究対象者に関する情報をお知りになりたい場合は、他の研究対象者の個人情報等や研究全体に支障となる事項以外はお知らせすることができます。

研究に利用する研究対象者の個人情報に関しては、お名前、住所など、研究対象者個人を特定できる情報は削除して管理いたします。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も研究対象者と特定できる個人情報等は利用いたしません。

検討成果は、今後の鑑定・検査の精度向上に寄与することで、社会に還元・貢献していくことができます。ご協力いただきますようお願い申し上げます。

### 3. 本研究に関する連絡・お問い合わせ：

研究責任者 木下博之

香川大学医学部 人間社会環境医学講座 法医学

〒761-0793 香川県木田郡三木町池戸 1750-1

TEL: 087-898-5111 内線 2542

FAX: 087-891-2141